

神戸 阪神・北摂 東播磨 姫路・西播磨 但馬 丹波 淡路

HOME 丹波 記事

丹波

## 丹波木綿、復元に尽力 故西垣さんの回顧展 柏原



丹波木綿の復元、アレンジに尽力した  
故西垣和子さんの作品＝西垣邸

丹波地域の家庭に伝わっていた丹波木綿の復元に尽くした故西垣和子さん（一九一八-二〇〇八年）を回顧する「丹波木綿展」が十五日、丹波市柏原町柏原の西垣邸で開幕する。地元有志が企画。着物や反物など約七十点と、愛用した機（はた）、布ぎれ約百五十点を集めた「縞帳（しまちょう）」などを公開し、丹波木綿に生涯を掛けた女性の生き方をたどる。（敏蔭

潤子）

西垣さんは、ろうけつ染めや西陣のつづれ織りを手掛けていたが、故郷の女性たちが受け継いできた丹波木綿に洗練された感覚を見だし、四十二歳で丹波木綿の道に進んだ。

丹波地域は綿栽培が盛んで、女性が家族用に布を織っていた。織物のつらさやもどかしさを知る西垣さんは、布の中に込められた女性たちの思いに共感したという。旧家を訪ね歩き、手本となる「縞帳」を採集。忠実に再現するために綿の栽培から始め、糸を紡ぎ、植物を使って染織した。

当初は自宅でひっそりと織っていたが、作品の素晴らしさが口づてに広がり、東京で個展を五回開催。作家の武者小路実篤は「感じのいい奥ゆかしい織物。しんみりした味をそのまま楽しんで出している」と評価した。

しかし、高齢とともに織りから遠ざかり、昨年二月五日に死去。存命中は「伝統を引き継ぐため、地元で作品展を開きたい」と話しており、柏原の住民らが遺志を継いで一周忌に合わせ作品展を企画した。住民らは「将来は西垣邸を公開し常設展示したい」と話している。二十二日まで。無料。「丹波木綿展」実行委員会TEL0795・72・0021